

令和元年度 建設委員会行政視察報告書

建設委員会

委員長 押 田 大 祐

1 視察期間 令和元年12月19日(木)

2 視察先及び視察事項

- ・大島橋
「大島橋の架設工事について」

3 視察参加委員

委員長	押田	大祐
副委員長	尾上	一彦
委員	岡部	享
〃	竹田	勝
〃	小西	直樹
〃	堀江	かず代
〃	村上	和久
〃	五本	幸正

4 随行職員

議事調査課主査 本田 宏之

5 視察概要

12月19日(木) 大島橋

(1) 視察事項

大島橋の架設工事について

(2) 視察の目的

大島橋は、昭和34年に竣工した幅員4.5メートルのコンクリート橋であり、平成26年度に撤去するまで近隣住民の生活道路や周辺企業の通勤路として長く利用されていた。

下新西町上赤江線の整備に伴い、かけかえを行うこととなり、新しい大島橋の完成が望まれているところである。

その取組み状況を視察し、当該事業への理解を深め、今後の委員会活動の参考とするもの。

(3) 取組みの概要

大島橋は、桁下高さを確保し、左岸側の牛島城川原線にスムーズにつなぐため、桁高が抑えられるプレビーム工法が採用されている。

富岩運河の遊覧船は運航頻度が高く、また富岩運河沿いでは散策やランニングをする人がたくさんいるため、工事による影響を抑え、安全を確保する必要がある。

プレビーム工法とは、工場で桁を製作し、分割して輸送後、現地でクレーン架設を行う(分割工法)ことで、現場での桁製作作業が不要となるため、工期の短縮が図られ、工事による歩行者・遊覧船への影響を抑えることができる。

プレビームとは、鋼桁とコンクリートを合成し、プレフレクション(曲げ変形)、リリース(解放)によりプレストレスを導入した桁で、他形式に比べ非常に低い桁高で設計施工が可能であり、桁高が制限される橋梁の桁、建築物の梁等に多く適用され、現在では1,000橋以上の実績があるとのこと。

(4) 所感

〔押田委員長〕

建設委員会では、都市計画道路下新西町上赤江線の大島橋上部工工事を視察した。

富山駅北部地域には東西を結ぶ道路が少なく、富山駅付近で慢性的な交通渋滞が発生している。この道路の整備によって、駅周辺の交通に分散が図られるとともに、富岩運河環水公園をはじめとする富山駅北地区の利便性が向上することが見込まれる。その機能の重要なポイントとなるのが今回視察した大島橋である。

視察時点では、基礎工、下部工の工事を終了しており、上部工の敷設中であった。上部工はプレビーム工法を用い、橋桁を薄く、かつ、一定の強度を保たせている。橋桁を薄くする理由に関しては、環水公園から中島閘門を通り、岩瀬まで向かう遊覧船事業への配慮がある。

暫定供用開始は令和2年度と迫ってきている。

今後も遅れなく進捗を進め、市民生活や周辺企業への貢献を成し遂げていただきたい。

令和元年12月19日（木）大島橋

